

日本の苗字の由来と難苗字



編集・製作 上総の国いちはらの歴史を知る
会

参考資料として、名字由来ネット・日本姓氏語源辞典等を使用

日本人の苗字の由来と分類・使用人数

私たちが日常生活で使っている苗字は、現在全国で30万種類ほどあると言われている。これらの由来や分布を調査してみました。

まず名字の読み方を調べ、訓読みか音読みかを分類します。訓読みとは日本古来の大和言葉のことで、古い地名のほぼ全てが訓読みです。その為地名から生まれた苗字も当然訓読みとなります。苗字の内80%以上が地名に由来するものであると言われています。地名が由来であれば、その語源の由来を知れば、それが苗字の由来となり、大半が先祖がその地に住み着いたこととより、その地名を苗字として使用したと思われる。

また、苗字を名字とも書きますが、名字とは中世に用いられた言葉で、その土地を支配した者がその地名を家名として用いた際に使ったと思われる。その土地の名字の地と言い、その家は名字の土地の領主だったという訳です。

しかし、時代が下るとその土地の領主ではなく、そこに住み着いた者も「みょうじ」を名乗るようになりました。それらは様々で領主から「みょうじ」を下賜された者や、名家の名字無断で名乗る者も現れました。このようになると、これらの「みょうじ」を中世の名字という言葉では表現しきれなくなったので、中世後期以降は、名字に代わって「子孫」や「血が同じく」「根っこが同じ」という意味の苗の字を用いた苗字というようになったという。その為、江戸時代の公式な記録には苗字しか出てきません。(明治3年'1870年)に明治政府が出したお触れも名字ではなく「平民苗字許可令」です。

歴史家の多くは苗字を使用している。

苗字の由来を遡ると、33種類のタイプに分類できる。この分類法は「丹羽元二氏」が発表されたものです。「日本姓氏大辞典」を参考にしながら紹介しますが、一部変更の所もあります。

- 1・地名型 同一の地名から発祥したもので、苗字全体の80%以上を占めている。
- 2・氏型 古代の氏(うじ)に由来しているもので、蘇我氏・物部氏・藤原氏・菅原氏など。
- 3・物象型 動植物や器物、建造物などの由来する物象的な苗字で、机・辻堂など
- 4・職名方 職業・役職・官職などに由来するもので、目(さっか)・大工など。
- 5・名前型 通称、実名など名前に由来する苗字で、源内・為貞など。
- 6・略姓型 本来の名字を省略したもので、宗(本来は惟宗(いむね)・小笠(小笠原)など。
- 7・当て字型 当て字を用いた苗字で、池鯉鮒(ちりふで本来は知立)など。
- 8・佳字型 佳字(かじ)、美称、端祥文字で飾った苗字で、久保(窪)など。
- 9・転字型 文字の変化(転字)、読みの変化(転音)、連濁。綿谷(綿屋の転字)など。
- 10・消失型 かつては存在していたが、現在は消滅してしまっているもの。
- 11・信仰型 進行などに関係がある苗字で、星・月など。
- 12・古姓型 古代姓氏と関係が深いもので、2氏型と区別が必要。武内(武内宿禰)など。

- 13・外来型 外国渡来や外国とゆかり深い苗字で、高麗（こま）や奏など。
- 14・沖縄型 沖縄・奄美地方に関係の深い苗字で、具志堅・渡嘉敷・恵・元など。
- 15・賜姓型 天皇や殿様から下賜された苗字で、葉袋（みない・武田信玄より下賜された）など。
- 16・合字型 二字が合わさって一字なった苗字で、糸（久米）や小柴（小比木）など。
- 17・商業型 商業に関係する苗字で、屋号からの由来が多く、魚屋・糸谷（糸屋の転字）など。
- 18・皇族型 皇室・宮家・皇族に関する苗字で、有栖川・大后（おおきさい）など。
- 19・人名型 一般的な人名呼称に由来する由来で、奴（やっこ）や早乙女など。
- 20・アイヌ型 アイヌ民族、またアイヌ語に由来する苗字で、小比類巻など。
- 21・公家型 公家、または公家の称号に由来する苗字で、近衛・九条・公卿など。
- 22・複姓型 二つの名字が合体した姓氏で、竹田河辺や疋田齊藤など。
- 23・部民型 古代の職業部、名代部、子代部など部民（べみん）に由来する苗字。
- 24・カバネ型 古代の姓（カバネ）に関係した苗字で、村主・連（むらじ）など。
- 25・蝦夷型 蝦夷と関係の深い苗字で、蝦夷（えぞ）・夷俘（えみし）など。
- 26・仏教型 仏教に関係が深い苗字で、僧侶の明治新姓の釈（しゃく）など。
- 27・神道型 神社や神道とゆかり深い苗字で、神（みわ）や三輪（みわ）など。
- 28・事象型 事柄、出来事、いわくなどから起こった苗字で、栗花落（ゆつり）など。
- 29・芸名型 雅号、芸名、筆名、別称に由来する苗字で、体阿弥・幸若など。
- 30・敬称型 敬称に由来する苗字で、王（おう）・殿（との）・卿（きょう）など。
- 31・屋号型 屋号に関する苗字で、17商業型と要区別で、角谷（角屋の転字）など。
- 32・族名型 古代の種族名などに由来する苗字で、隼人（はやと）など。
- 33・未詳型 由来が不明の苗字。
- 34・藤姓型 38代天智天皇の重臣藤原鎌足の流れをくむ藤原氏の子孫という○藤姓がトップ100の中に10姓も含まれている。

なお、現在の苗字の多くは地名型で、地名型は地形由来とその他の由来に分類でき、その他の由来は多くが分類の2以下の要素のどれかを含んでいるため、地名型であり、なおかつ他の型の要素を含むという重複型の苗字が数多くある。

日本の苗字トップ100姓は何か？

このトップ100姓で日本人口の約33%を占めています。つまり3人に一人が使っている苗字という事になります。なお「渡辺」さんの「辺」の異体字「邊」「邊」や「齊藤」さんの「齋」などは別の苗字としてカウントされています。

順位	苗字	読み	人数（おおよそ）	タイプ	由来
1	佐藤	さとう	1,887,000	氏・地名・職名型	左衛門尉（御所の門を警備する武

					官)+藤原氏。
2	鈴木	すずき	1,806,000	物象・職名型	熊野大社の神職穂積氏の一族など
3	高橋	たかはし	1,421,000	地名・物象・職名	高台の端、天地をつなぐ橋。
4	田中	たなか	1,343,000	地名型	古くに造られた田んぼに由来。
5	伊藤	いとう	1,081,000	氏・地名型	伊勢+藤原氏。伊豆+藤原氏。
6	渡辺	わたなべ	1,070,000	職名・地名型	52代嵯峨天皇の流れをくむ嵯峨源氏など。川の渡船場が由来。
7	山本	やまもと	1,057,000	地名型	山の麓、元は山の住人。
8	中村	なかむら	1,051,000	地名型	古くから開けた中止的な村落。
9	小林	こばやし	1,034,000	地名型	ハヤシとは生命力の象徴。
10	加藤	かとう	892,000	氏・地名型	加賀国+藤原氏。藤原利仁流など。
11	吉田	よしだ	835,000	地名型	豊かな実りを願った吉祥地名。
12	山田	やまだ	819,000	地名型	山の斜面の棚田などの由来。
13	佐々木	ささき	679,000	職名・地名型	59代宇多天皇の流れをくむ宇多源氏など。
14	山口	やまぐち	647,000	地名型	山の登り口に由来。
15	松本	まつもと	631,000	事象・地名型	松は常緑樹で縁起の良い木。
16	井上	いのうえ	617,000	地名型	井の辺で井戸のまわりに由来。
17	木村	きむら	579,000	地名型	古代の紀氏の本拠地。樹木の多い山や村に由来。
18	林	はやし	548,000	地名型	ハヤシとは神様を喜ばす音楽。
19	斎藤	さいとう	546,000	氏・職名型	伊勢神宮の斎宮祭（皇女のお世話係）+藤原氏。
20	清水	しみず	535,000	事象・地名型	清らかなすみ水に由来。
21	山崎	やまざき	485,000	地名型	山の裾野に由来。
22	森	もり	468,000	地名型	森は神聖な空間から由来。
23	池田	いけだ	453,000	地名型	池とは人工的な貯水池。
24	橋本	はしもと	450,000	地名型	橋のたもとに由来。
25	阿部	あべ	447,000	地名型	「あべ」とは低湿地、御料地などのこと。
26	石川	いしかわ	429,000	地名型	石の多い川に由来。
27	山下	やました	421,000	地名型	山本と同じく山の麓に由来。
28	中島	なかじま	403,000	地名型	中島とは村落の中心地。
29	石井	いしい	398,000	地名型	石でつくった井戸のこと。
30	小川	おがわ	398000	地名型	小川とは御川で禊ぎをする川。
31	前田	まいだ	384,000	地名型	前田とは領主屋敷や鎮守などの前の土地。
32	岡田	おかだ	381,000	地名型	岡田とは小高い岡のこと。
33	長谷川	はせがわ	379,000	転字・地名型	長く狭い谷川のこと。
34	藤田	ふじた	377,000	地名型	藤の花が咲く土地。
35	後藤	ごとう	374,000	氏・地名型	藤原氏の後（子孫）という意味。

36	近藤	こんどう	371,000	氏・地名型	近江国+藤原氏。藤原秀郷流。
37	村上	むらかみ	357,000	地名型	村落の上手が由来。
38	遠藤	えんどう	335,000	氏・地名型	遠江国+藤原氏。
39	青木	あおき	330,000	地名型	青木とは、緑色の葉が茂る木。
40	坂本	さかもと	328,000	地名型	坂の上り口のこと。
41	斉藤	さいとう	325,000	転字型	斎藤氏の変形型で、ルーツは同じ。
42	福田	ふくだ	314,000	地名型	幸福をもたらす土地のこと。
43	太田	おおた	312,000	地名型	広く大きな田地、または古代の大田部に由来。
44	西村	にしむら	310,000	地名型	本村の西に出来た村のこと。
45	藤井	ふじい	310,000	地名型	藤原氏の子孫。藤が咲く土地。
46	岡本	おかもと	298,000	地名型	岡の下。岡の麓が由来。
47	藤原	ふじわら	298,000	氏・地名型	古代の氏が苗字に転じた。
48	金子	かねこ	297,000	地名・事象型	金屋子神を祀る鍛冶屋の子孫。たたら場。
49	三浦	みうら	297,000	地名型	重要な港のこと。
50	中野	なかの	296,000	地名型	上野と下野の間にある中野。
51	中川	なかがわ	292,000	地名型	川の中流、真ん中の川など。
52	原田	はらだ	292,000	地名型	平たく広い土地の意味。
53	松田	まつだ	290,000	地名型	吉祥の松の木が生えている所。
54	竹内	たけうち	287,000	地名、名前型	武内宿禰の子孫、または窪地。
55	小野	おの	282,000	地名型	御野で神様の食料を収穫する地。
56	田村	たむら	281,000	地名・名前型	平安の名将坂上田村麻呂将軍の名前に由来。
57	中山	なかやま	270,000	地名型	連なった山の真ん中。
58	和田	わだ	268,000	地名型	作物が豊かに実る土地のこと。
59	石田	いしだ	267,000	地名型	小石が多い場所のこと。
60	森田	もりた	261,000	地名型	森田とは神が住む森のこと。
61	上田	うえだ	249,000	地名型	上手の土地のこと。
62	原	はら	247,000	地名型	平らな原野のこと。桓武平氏。
63	内田	うちだ	245,000	地名型	内田とは自分の私有している土地
64	柴田	しばた	244,000	地名型	雑木の柴が多い土地のこと。
65	酒井	さかい	241,000	地名型	酒田とは栄える土地のこと。
66	宮崎	みやざき	239,000	地名型	宮崎とは神社の前の土地のこと。
67	横山	よこやま	238,000	地名型	横にのびた山の尾根のこと。
68	高木	たかぎ	234,000	地名・物象型	天と地を結ぶ高い木。
69	安藤	あんどう	232,000	氏・地名型	奥州安部氏+藤原氏。安東と改姓した一族もある。
70	宮本	みやもと	230,000	地名型	宮本とは、神社領の田んぼ。
71	大野	おおの	222,000	地名型	大野とは未開拓の荒野のこと。
72	小島	こじま	217,000	地名型	小は接続語で、「しま」は区画を

					示す。
73	工藤	くどう	216,000	氏・職名型	木工助（朝廷の建設省次官）+ 藤原氏。
74	谷口	たにぐち	216,000	地名型	谷の入口のこと。
75	今井	いまい	214,000	地名型	新鮮な水が湧く井戸、水路。
76	高田	たかだ・	211,000	地名型	高田とは、高台のこと。
77	増田	ますだ	209,000	地名型	増田とは増収を願った地名。
78	丸山	まるやま	209,000	地名型	おわん形の山を丸山という。
79	杉山	すぎやま	208,000	地名型	杉の生えている山。
80	村田	むらた	207,000	地名型	田が群がり増える事。
81	大塚	おおつか	206,000	地名型	大塚とは、大きな古墳のこと。
82	新井	あらい	204,000	地名型	新しい用水路。新しい開墾地。
83	藤本	ふじもと	204,000	地名型	藤や柴の繁茂している地。
84	小山	こやま・ おやま	204,000	地名型	小は接続語で、山のこと。 藤原姓のこと。
85	平野	ひらの	204,000	地名型	平は平地ではなく、傾斜している 野原。
86	河野	こうの・ かわの	201,000	地名型	川沿いの野原。愛媛県の名族の 越智姓。
87	上野	うえの	201,000	地名型	村落の中心などから見て上手。
88	武田	たけだ	200,000	地名型	竹林がある土地のこと。清和源氏
89	野口	のぐち	199,000	地名型	野原の入口のこと。
90	松井	まつい	195,000	地名型	井は井戸に限らない。松の生えて いる所。
91	千葉	ちば	194,000	地名型	葛の繁茂地など。桓武平氏。
92	菅原	すがわら	193,000	地名・氏型	菅原とは湿地で菅の繁茂地。
93	岩崎	いわさき	192,000	地名型	山や海辺にある大きな岩の先端。
94	久保	くぼ	188,000	地名・佳字型	土地を久しく保つという意味の佳 学。
95	木下	きのした	188,000	地名型	神聖な木が生えているところ
96	佐野	さの	186,000	地名型	狭い野原や原の美称。
97	野村	のむら	186,000	地名型	野原にある村落のこと。
98	松尾	まつお	184,000	地名型	原義は松生で、松林の地。
99	菊地	きくち	183,000	地名・転字型	山間での狭い土地。菊池の変字形 で東北地方に多い。
100	杉本	すぎもと	182,000	地名型	杉の生えている所。杉は神様の よりしろ。

このように分類すると、いかに地名型の多いかがよく分ります。ご自分の苗字が地名型であるかどうかを知る簡単な方法があります。それは漢和辞典で読み方が書いてありますが「ひらがな」で表記されている場合は「訓読み」で「カタカナ」で表記されている場合は「音読み」です。2字とも訓読みであれば、日本古来の言葉です。

参考資料 岸本良信氏のホームページ「苗字の由来」より

おもしろ・珍しい・読めない苗字一覧表

初級編

NO	苗字	呼び名	由来
1	珍名	ちんな	北海道に少数見られ、語源はアイヌ語。「チン」は足「ナ」は水や川という意味。
2	本名	ほんな・ほんみょう・ほんめい もとな	福島県西半部にあたる場所で、「岩代国大沼郡本名村」がルーツで、現在は「金山町本名」と変わっている。
3	面白	おもしろ・おもしろ・おもて	現在の島根県で「出雲国意宇郡面白邑」が発祥。福島県でも見られる地名で、風景や地形がおもしろい所からきている。地表が白く砂地で平板になっている場所などをさす。島根県・兵庫県に少数見られる。
4	御手洗	みたらい・みたらし・みたあらい みたらい・みたらし・みたあらい みだらい・みてしろ・みてらし	御手洗とは、神社やお寺でお参りする前に口や手を荒い、清める場所のこと。とても神聖な意味を持つ苗字です。福岡県・大分県・山口県に多い苗字。
5	大仏	おさらぎ	鎌倉幕府の執権を世襲した北条氏の苗字の一つ。「だいぶつ」ではなく「おさらぎ」と読む理由は、「若木山（おさらぎやま）という山が大仏の形に似ていて、「おさなぎ」から「おさらぎ」に変化した。
6	努力	ぬりき	「努力」と書いて「ぬりき」と読む。大阪府に少数見られる。
7	楽々	ささ	全国で10人ほどの希少な妙字。由来は不明。
8	記録	きろく	東京都・静岡県・大阪府・広島県見られる珍しい苗字
9	佐曾利	さそり	「摂津国川辺郡佐曾利」が起源という。「佐」は下野国佐野庄、または佐衛門尉の職名で、律令制下の官職
10	一言	ひとこと	静岡県西部である遠江国豊田郡一言村が起源。磐田市の一言神社には、徳川家康が敗戦した時に一言お祈りし、聞き届けられたという言い伝えもある。
11	平安名	へんな・へいあんな・へあんな ひらやすな・へいあんみょう・ ひらあな	沖縄県の地名、「勝連間平安名」が起源。「平」は平らな地形を表している。
12	接待	せったい・あたり	現材の岩手県である「陸中国閉伊郡接待邑」が発祥。清和天皇の子孫で源姓を賜った氏（清和源

			氏)の南部氏族という。
13	一円	いちえん	現在の滋賀県の近江国犬上郡一円村が起源。中世の地名であり、領主から土地一円(全域)頂戴したことに由来する。
14	大王	だいおう・おおきみ	宮城県日向市や三重県志摩市などに「大王」という地名はある。また、大王寺・大王社などの地名がある。「大王」は職掌姓であり、天皇の二世以下、四世以上の親族に関することを司ったという語源もある。
15	鷓鴣	ささき・ささぎ・さざき	佐々木と同様とも言われる。語源は「小さな崎(ささき)」「突き出た小地形」を表している。
16	八百屋	やおや	起源は屋号性で、「魚屋(うおや)」という苗字もある
17	平和	ひらわ	関西地方がルーツと思われ「平ら」で「輪」のような地形を意味している。
18	万歳	まんざい	奈良県である「大和国葛下郡万歳郷」が起源とされる
19	幸福	こうふく	薩摩が起源と言われる。また、山形県酒田市や大阪府門真市もルーツの一つ。他にも「光福寺の寺侍」や屋号や称号が由来の場合もある。また、当時生活が苦しかった農民が、「せめて名前だけでも」と願いを込めたという説もある。
20	流石	さすが・ながれいし・ながれ・りゅうせき・りゅうぜき	現山梨県である甲斐国都留郡勝山村が起源という。「石」は石や岩で堅い地盤を表している。

中級編

1	酢	す	富山県である中越が発祥と言われる。同地特有の生活用品や日常に見られるものが由来と言われる。砂糖や塩(しお・えん)・味噌という苗字もある。
2	昆布	こんぶ	北海道虻田郡に「昆布」という地名がある。昆布が取れる場所や職業が語源と言われる職業姓。
3	竹ノ子	たけのこ	青森県に多く見られる伝統的な苗字。由来は竹の茂っている地形からと思われる。
4	和食	わじき	徳島県である阿波国那賀郡和食村が起源という。他にも、元高知県である土佐国安芸郡和食郷がルーツという説もある。「和」は輪のような地形を表している。
5	皇	すめらぎ	滋賀県の浄土真宗の浄願寺が由来という。また、皇花山の「皇」の文字が語源とも言われる。
6	勘解由小	かでのこうじ	京都の小路の名称であり、勘解由使庁の所在地から

	路		着いた。
7	宇宙	うちゅう	長崎のお寺の関係者が、仏典からとった仏教用語が由来という。
8	雲母	きらら・きら	静岡県や北海道にもこの苗字が見られる。鉱物の「雲母」がキラキラと光ることから名前が着いた。
9	突々	とつとつ・とつとつ	兵庫県や東京都に見られる。由来は不明。
10	七五三掛	しめかけ・しめがけ・しめい	山形県の出羽国田川郡大網村（現朝日村）七五三掛が起源。「注連（しめ）かけた聖地」立ち入り禁止の土地が語源。茨城県や栃木県などで見られる。
11	百々米木	よどめき	現富山県の中越が発祥の伝統的な苗字。
12	八月一日	ほずみ・はっさく・やぶみ・ほづみ	同じ読みで「八月朔日」と書く場合もある。源氏にも見られる。穂積氏の異形であり、旧暦八月1日に実る稲の穂を摘み送る風習が語源。
13	四月朔日 四月一日	わたぬき・つぼみ・わたぬぎ・さつき	綿貫と同様ともいえる。清和天皇の子孫で源姓を賜った氏、桓武天皇の子孫で「平」の姓を賜った家系である平氏、中臣鎌足が天智天皇より賜ったことにはじまる氏、などに見られる。旧暦の四月一日に、記物などの綿を抜くころからきている。
14	栗落花 五月七日	つゆり	五月七日、梅雨に入るので「つゆり」と読むそうです。梅雨に入るところに栗の花が落ちるから「栗落花」と書く。ほかにも、この日に栗花落（つゆり）という雨乞いの祭が行われるのが語源。
15	源五郎丸	げんごろうまる	現佐賀県と長崎県である肥前が起源。「源五郎の開拓した土地」が語源で、源姓が由来。
16	謝花	しゃはな・しゃばな・じゃばな ざはな・しゃはな・しゃか	沖縄県由来の苗字。「本部間切謝花」という土地の名前が起源。
17	百目鬼	どうめき・どめき・ももめき・ひやくめき・とどめき・もめき	茨城県である常陸起源とも言う。語源は「流水や車馬の進む音という。茨城県や栃木県に多い。
18	月見里	やまなし・つきみさと	山がないと月見が良くできるという由来。
19	小鳥遊	たかなし	鷹が居ないと小鳥が遊べるので「たかなし」と呼ぶ。高梨からの転訛とされている。清和源氏の子孫で源姓を賜った氏、井上氏流の名族という。
20	猫屋敷	ねこやしき	猫好きの家は関係なく、この場合の「ねこ」は「根っこ（根本）」やそば、かたわら」で、「猫の額ほどの土地」を意味する。岩手県南東部と北西部を除く地域が発祥の地という。

上級編

1	一	はじめ・いち・にのまえ・よこいち・いともんじ・ひともんじ・かずと・でかた	語源は一の村、一の坪、一の庄などの当て字とされている。地名も各地にみられ、由来も諸説ある。「一」は昔から縁起の良い数とされている。
---	---	--------------------------------------	---

2	四	あずま	東屋のことを中国伝来語で「四阿」と書くことから、四を「あずま」と読むようになったという。現在では、新潟県に一世帯のみが存在している。
3	五六	ふのぼり・ふかぼり	将棋で、歩が五六の位置から進むと「金に成る」ことから「ふのぼり」と読む。
4	九	いちじく・いちのく・く・く くのく・まる	「いちじく」という読み方は、数字の9が一字で書けることからこう読まれたという説と、ひとつの字で九なので「いちじく」と読む説などがある。村内や軒数などの地名にするようで、現在では新潟県や長野県に少数ある。
5	十	もげき・もぎき・じゅう・つなし・ もげき・よこたて・つじ	漢字の「木」の左右の払いが、もげていることから「もげき」と読むようになった。新潟県や北海道などに少数見られる。
6	九十九	つくも	「百（も）に、あとひとつで着くという意味で「つくも」と読む。群馬県安中市に「九十九」という地名もある。長崎県に九十九島など、全国にある地名。
7	艸楽	さがら	この苗字は、愛知県に見られるが、由来は不明。
8	百鬼	なきり・なぎり	現静岡県西部にある遠江が起源と言われる。静岡県に多く、特に磐田市に集中している。
9	喜屋武	きゃん・きやん・きやたけ きやぶ・きやたき・きやだけ きやし・きやむ・きよたけ かやてけ	琉球である沖縄の苗字。沖縄本島最南端の自治体だった喜屋武間切（のちの喜屋武村）が起源であり、語源は「島の最南端」という意味から来ている。
10	文殊四郎	もんじゅしろう	香川県の讃岐が発祥という。中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる。福井県でも見られる苗字。
11	角大鳥居	すみおおとりい・すみお	福岡県の水田天満宮に隣接する土地で、大鳥居一族から、浦鬼門に作った神社を任されていたのが「角大鳥居」と言われた由来。
12	次郎垣内	じろうがきうち・じろうがいち・じろうかきうち	山口県にある長門が発祥という伝統的な苗字。「内」は屋敷内の内側や自分ものという意味。
13	良縁寺	りょうえんじ	福島県喜多方市に「良縁寺」という寺院がある。
14	四十九院	つるしいん	三重県北西部にあった伊賀国阿拝郡四十九院が起源。四十九日の間は仏事では「中有」（人が死んでから、次の生を受けるまでの間）であり、生魂であるため魂を慰める場所が四十九院とされる。
15	大豆生田	おおまめうだ・おおまみうだ・ おおまみゅうだ・おおまめだ まみうだ・おいまにゅうだ おおつきだ・おおましょうだ おおまにだ・おおまにゆだ おおままうだ・おおまめいくた おおむた・おおもうだ・ほめま	現栃木県である下野が起源と言われ、大豆の植えられた田んぼが地名となり、姓氏に使われるようになった山梨県や栃木県に多く見られる。」

		いきた・ましえだ・まにうた まみやわだ・まめおだ	
16	御菩薩池	みぞろけ・みぞろげ	京都の山城国愛宕郡御菩薩池が発祥という。由来は池の水面に地蔵菩薩の姿が現われたという言い伝えから名前が着いたという。
17	一番ヶ瀬	いちばんがせ・いちばんかせ いちばがせ	佐賀県である肥前国神埼郡服巻一番ヶ瀬が起源という。「瀬」は流水が浅く流れるところを表している。佐賀県など九州北部に多数見られる。
18	左衛門三郎	さえもんさぶろう	名前が苗字に転じたという。豪族の名前から自己の所領に地名がつき、子孫が苗字を名乗ったとされる伝統的な苗字。他にも左衛門田、左衛門九郎などの地名も見られる。
19	毒島	ぶすじま・どくしま・ふすじま どくじま・とくしま	群馬県にある上野が起源という。「ぶす」はトリカブトの別名の附子をさしている。
20	曇	もたい・さかだる	東京都、埼玉県広域・神奈川県北部である武蔵、或いは長野県である信濃が起源と言える。「茂田井」から転訛したとも考えられる。近年では、新潟県柏崎市に多く見られる。
21	神	じん・かみ・こう・かん・かなえ しん・みわ・こお	「神」にはいくつかのルーツがある。出雲大社から出た諏訪神家の子孫や、三輪氏族の子孫が神氏を故障していた。また、後世には中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）の神氏も見られる。
22	鬼	おに・きい・き・きさらぎ・きいん	島根県西半部である、石見国邇摩郡鬼邑が発祥という伝統的な苗字です。豊臣秀吉らの強さを認められ、「鬼のように強いから」という理由で授けられた苗字
23	回り道	まわりみち・まはりみち	和歌山県日高郡日高川町千津川回り道が起源とされる。「まはりみち」という読み方は歴史的かな違いの読み方。
24	浮気	うき・ふけ・うくぎ・うわさ うきげ	滋賀県守山市浮気町が起源という。語源は、水の豊かな土地で早朝などに水蒸気が上がって見えるのが由来で、恋愛の浮気とは関係なし。
25	南蛇井	なんじゃい	群馬県富岡市にある南蛇井という町が発祥です。
26	卍山下	まんざんか・まんじゃました	日本である苗字で「卍」を使うには「卍山下」だけで起源は、大分県別府市の僧侶による明治時代の新姓。
27	不死川	しなずがわ・ふじがわ	語源は藤川と同じと思われる。浄土真宗本願寺派の僧などに見られる寺院の姓です。
28	凸守	でこもり	由来は不明。大阪府に1世帯ある様です。
29	肉丸	にくまる	「～丸」とは「(～の開発した田んぼ)」という意味。大分県宇佐市や長崎市に見られる苗字。

30	禿	かむろ・とく・はげ・かぶろ・はげ・いなずか	「かむろ」とは、昔の少女の髪型で、今で言う「オカッパ」に近い髪型のこと。熊本県に多く見られる。
31	毛穴	けな・けあな	大阪府堺市中区毛穴町が発祥と思われる。古くは「毛名村」と呼ばれていた。鎌倉時代には「かな」の表記で存在している。大阪府堺市で多く見られる苗字。
32	鼻毛	はなげ	「ハナ」は岬、先などの意味を持つ地形語で、「ケ」は「下」などの意味を持つ接続詞。「花家」や「花毛」と書く場合もある。仙台市泉区や福島市に鼻毛という地名もある。大阪市津市に多く見られる。
33	髭	ひげ	京都北西部と兵庫県東部にある「丹波国多紀郡」の有名氏族の姓。大阪府や滋賀県に多く見られる。
34	父母	ふぼ・たらちね・ふも・ふほ たらし	熊本県肥後が発祥の地という。香川県には「父母が浜」（ちちぶがはま）や「父母峠」（ちちぶとうげ）などの地名があり、地名が由来の場合もある。また「ふぼ」「ふほ」と呼んだ場合は、「節（ふ）面（も）」で、節のように盛り上がった土地のことを指します。
35	人首	ひとかべ・ひとこうべ	岩手県にあった陸中郡江刺郡人首村が起源という。坂上田村麻呂が悪路王の一族人首丸の首をはねたことに由来するとの伝説。岩手県・福島県・東京都に少数見られる苗字。
36	鳳凰	ほうおう	京都府宇治市にある「平等院鳳凰堂」が由来という。熊本県に多くみられる苗字。
37	王来王家	おくおか・おうらいおうけ	「奥岡」語源は同じ。三重県の「伊勢」が発祥という
38	悪七	あくしち	「悪」という字はかつて「強いもの」や「力強さ」という意味合いを持ち、良いイメージも併せ持っていた「悪七」とは、平安・鎌倉期の武将である「藤原景清（平景清）」のことで、その末裔が名乗っていたという
39	留守	るす・とめもり	多賀国府の民政を司とった職「留守職（るししき）」が起源という。職掌姓であり、本職に代わって政務を執行するというのが由来。源頼朝の代わりに、多賀府で伊沢氏がこれにあたり、後の姓氏となったという。宮城県、山形県などに見られる苗字。
40	無敵	むてき	山口県下関市の餅屋が、長州軍と幕府軍の戦いに石を投げて参戦したことで、高杉晋作からその功績を称えられ「無敵幸之進勝之」の名前を賜った。山口県下関市・熊本県・大分県に獄少数見られる。

4 1	春夏冬	あきない・あきなし	「秋」の字が抜けているので、着いた苗字。 商売の「商い」にかけた意味もあると思われる。
4 2	明日	ぬくい・あけひ・みょうが・あす	「明日が晴れますように」と意味が込められた苗字
4 3	缶	ほとぎ	金沢市では江戸時代に越後谷の屋号で素焼きの臺を「缶」と表現していたという。推定では新潟県が起源地ではないかという。石川県に10人や東京都や神戸市に少数いる。
4 4	五百旗頭	いおきべ・いおりべ・いほきべ	皇紀からでは弥生時代の景行天皇の皇子である「五百城入彦皇子（いおきりびこのみこ）の御名代部から来ている。兵庫県、大阪府に多く見られる。
4 5	雲類鷲	うるわし	茨木県行方氏小貫（旧：宇流波斯小野）が発祥という奈良時代に記録のある地名。茨木県に多く在住。
4 6	一尺八寸	かまずか・かまつか	昔、かまの柄が一尺八寸あった事に由来する。 静岡県に20人ほど在住。
4 7	御薬袋	みない	薬袋の異形で、兵庫県に20人、東京都に10人在住
4 8	武者小路	むしゃのこうじ・むしゃこうじ	通路から着いた苗字で、「無車小路」とも書いた。 東京都に20人千葉県に10人在住という。
4 9	猩々	しょうじょう	松前藩の殿様に自家製のお酒を献上したら大変喜ばれたという言い伝えがあり、能の「猩々」という演目がある。北海道に多く在住している。
5 0	陸上	くがうえ・くがみ	鳥取県岩美郡岩美町陸上が発祥の地という。戦国時代の記録の有る地名。兵庫県に極少数在住。
5 1	奉日本	たかもと	高本の異形で「日本を奉る」という意味で称した。 大阪府茨木市に極少数在住。
5 2	四十物	あいもの	「あいもの」とは、「生きもの」と「干しもの」の中間という意味で、全部で四十種類あったので「四十」と書いたという。更に乾物は始終食べれたので「四十（しじゅう）」と書いた地言う。 富山県や北海道に多く在住。
5 3	五十山田	いかいだ・いがいだ	新潟県の越後が発祥という。山は地形の山を表す。 全国で70人程度在住。
5 4	主税	ちから	百官名の一つで、主税寮（ちからのつかさ）から由来
5 5	鶴喰	つるはみ・つるばみ	昔、源頼朝がこの地に来た時にたくさんの鶴が餌をとっていたのを見てつかられたという、古くは青木・新谷・八田畑・藤代町を含めた広い範囲を「鶴喰郷」と言った。また青森県上北郡六戸町が発祥の地という説もある。北海道に130人、鹿児島県に50人、他に少数在住する。
5 6	鍛冶屋敷	かじやしき	鍛冶屋敷という地名が起源。全国に40人程度在住

57	嘉数	かかず・かすう・よしかず	ルーツは沖縄で、宜野湾市や富見城市に嘉数という地名があり、それが苗字になった。岡山県にも在住者
58	美甘	みかも	岡山県北東部の美作国真島郡美甘郷が起源という。岡山県に多く在住。
59	外種子田	ほかたねだ	由来については不明。宮崎県や鹿児島県に30人在住
60	長曾我部	ちょうそかべ	高知県の土佐国長岡郡曾我部が起源。宮崎県や熊本県に多く見られる。
61	喜屋武	きゃん・きやん・きやたけ・きやぶ・きやし・きよたけ	旧琉球の苗字で、喜屋武間切が起源という。語源は、島の最南端という意味。沖縄・東京都・鹿児島県に6400人在住。
62	蓬莱	ほうらい	元来は中華人民共和国山東省の東の海に、ある仙人が住むという伝説の土地が起源。秦の時代にシナで不老不死の薬を求めて東方に船出した徐福伝説があり。兵庫県加東市大門では、室町時代に居住した佐国氏の後継者が江戸時代に改姓したと伝えられる。全国に1700人ほど在住し、兵庫県に多い。
63	祖母井	うばがい	栃木県にある地名が起源で、栃木県の大名だった宇都宮氏に仕えていたが、南北朝時代に宇都宮氏の分家が愛媛県の伊予に移り住んだので、祖母井氏の分家も移り住んだという。「ウバ」とは地形を指し、主に一部がえぐられた地帯という意味。愛媛県や東京都その他に在住し470人在住。
64	神酒	みき	熊本県に見られ、酒造氏など酒造りにまつわる職業から来ている。全国に70人おり熊本県鹿児島県に在住。
65	四十谷	あいたに・しじゅうたに	福井県東部にある越前国坂井郡四十谷が起源という。全国で120人で富山県に多く在住。
66	柘植	つげ・つげうえ・つげしょくしげうえ・ざくうえ・せきしょく・たくしょく・しゃち	三重県西部にある伊賀国阿拝郡柘植庄が起源という。桓武天皇の子孫で、平の姓を賜った家系である平高棟王流がある。他に清盛流などにも見られる。
67	八十科	やそしな	伝統的な苗字で、近年、北海道檜山喉に見られる。全国に20人ほど在住する。
68	瀧野瀬	たきのせ	滝のある地形や地域が語源で、三重県北西部である伊賀国柏原村滝野が起源という。大江氏（十師の族で相撲の元祖の野見宿禰の子孫。平城天皇の子孫と言われる）とも言われる。他に源氏、中臣鎌足より賜ったことに始まる氏（藤原氏）などに見られる。全国に30人ほど在住。東京都静岡・神奈川に多い
69	昌子	しょうじ・しょうご・しょじ・まさこ・まさご・あさこ	島根県の出雲が起源という。全国に690人在住し島根県に多く在住。
69	貴家	さすが・きや・きか	山梨県の甲斐が起源というがはっきりはしない。山

			梨県や東京都などで370人在住する。
70	末包	すえかね	兵庫県南西部である播磨国佐用郡末包村が起源。中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）。全国に550人在住し香川県や大阪府に多い
71	小比類巻	こひるいまき・こびるいまき・ こひるまき・こびるまき	青森県がルーツで、アイヌ語で「窪地のところ」という意味が語源。全国に1000人在住し、青森県や北海道・東京都に多く在住。
72	一二	かずじ・いちに・ひふ・つまび ら・いちじ・ひふた	はっきりとした由来は不明。全国に110人在住する。熊本県に多い。
73	小浮気	おぶき・こぶけ・こぶけ	下総国相馬郡小浮気村が発祥という。語源は小さな湿地帯という意味。全国に20人在住で京都府と滋賀県に多い。
74	目	さかん・さがん・さっか・しゃ がん・め・もく・さがみ・	大宝令による太政官制の四等官（主典）のことに由来し、その子孫にあたる。語源は、目のような細長い地形を言う。全国に700人在住し、大阪府や山口県に多い。
75	降魔	こうま	由来等は不明。全国に20人ほど在住。岡山県・大分県に多い。
76	頭利	ずり	由来は不明。岡山県に30人在中。
77	英	あなた・あがた・えい・はなぶ き・さだ・ひで	石川県の加賀国が発祥という。語源は花卉の形に広がった街並みという。全国に2800人在住し、石川県・東京都・大阪府に多い。
78	水流	つる・みずなが・みずながれ・ すいりゅう・みずる	薩摩国出水郡水流村が起源という。水流とは小川や用水路沿いに開墾された土地のこと。2300人在住し、鹿児島県・宮崎県に多く在住。
79	上水流	かみずる・かみつる・かみすい りゅう・かみみずながれ・ じょうすいりゅう	薩摩国出水郡上水流村が起源という。「上」は下や中に対し、高い所や奥を表す。「水」は水のある所を表す。730人在住し、鹿児島県に多い。
80	下水流	しもずる・しもつる・しもづる	薩摩国出水郡下主流村及び日向国諸県郡下水流村が起源。「下」は上や中にたいし、低い所やふもとを表す。270人在住し、鹿児島県に多い。
81	興梧	こおろぎ・こうろぎ・こうの き・こうまつ・こうりょ・こし	語源は、神霊の宿る清い木の意味で、神の依り代の木から来ている。全国に5600人在住し、宮崎県や熊本県に多い。
82	妻鳥	つまとり・つまどり・めんどり めとり	愛媛県の伊予国宇摩郡妻鳥村が起源。全国に1100人在住し、愛媛県東予地域に多く見られる。
83	十一	といち・とかず・じゅういち・ そいち	青森県八戸市に地名がある。裏通りの町人町が語源。全国に90人おり、香川県、大阪府に多い。
84	祝	いわい・しゅく・つう・のり しゅう・のりと・はじめ・よし はふり・ほほり・ほり・ほおり	職名により起こる苗字。全国に1800人在住し、新潟県、大阪府に多い。
85	萬里小路	までのこうじ	公家萬里小路家は中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）良門流とも言われる。全国

			に40人在住し、東京都、富山県に多い。
86	九十三	つくみ	九十九(つくも)氏からの派生姓。全国に10人在住し、北海道に在住。
87	東風平	こちひら・こちんだ・くちんだ	琉球である沖縄県東風平間切が起源。東風が吹く平坦な土地が語源。全国に500人在住し沖縄に多い
88	弥勒院	みろくいん	お寺のある地域や僧に由来。全国に60人在住し、千葉県に多い。
89	木牟礼	きむれ	宮崎県の日向が起源という。鹿児島県出水市に木牟禮城址(島津家発祥の地とされる)があり、近隣に同姓が見受けられる。全国に120人在住し、宮崎県に多い。
90	瑞慶覧	ずいけいらん・ずけいらん ずげらん・ずけちん・すけらん みずけいらん	琉球である沖縄県由来の苗字。中城間切瑞慶覧が起源。全国に2400人在住し、沖縄県に多く在住。
91	天女目	あばため・なばため・なめの	生田目と語源をともにする。栃木県の下野が発祥。伝統的な苗字です。全国に30人在住する。
92	御得久	ごえく	琉球である沖縄県由来の苗字。全国に280人在住し、多くは沖縄県に在住。
93	四十宮	よそみや	徳島県である阿波発祥とも言う。「宮」は神社を表す全国に40人在住し、徳島県に多く在住。
94	鹿子生	かごあ・かねお・かこう	福岡県南部の筑後国上妻郡鹿子生村が起源で八女郡黒木町土窪に集中している。全国に250人在住。
95	方波見	かたばみ・かたなみ・かわみ かばみ・ほうなみ・ほなみ	茨木県の常陸が起源。桓武天皇の子孫で、平の姓を賜った家系である平氏大椽氏流です。全国に1900人在住し、茨木県や東京都、神奈川県に多く在住
96	我如古	かねこ・がねこ・かじょこ・ あにこ・がにく・がねく	琉球である沖縄県が由来の苗字。宜野湾間切我如古が起源という。全国に2200人在住し、沖縄県に多い。
97	東京	とうきょう	全国に10人と希少な苗字。
98	安心院	あじいん・あじみ・あじむ	大分県北部の豊前国宇佐郡安心院荘が起源。宇佐八幡宮がこの地で安心生得されたことに由来する。全国に580人在住し、大分県、福岡県に多い。
99	六十里	ついひじ・むそり・ついふじ	伝統的な苗字ですが由来は不明。全国に30人在住するが、東京都、神奈川県・千葉県に在住。
100	注連野	しののめ・しめの	七五三野と語源は同じ。上総国が発祥という。全国に100人在住し、千葉県袖ヶ浦市に多い。
101	南風原	はえはら・はえばら	旧琉球である沖縄県島尻郡勝連村などが起源。南風が吹いている原が語源という。全国に690人在住し、沖縄県に多い。
102	弘原海	わだつみ・ひろはらうみ	兵庫県丹波が発祥という。全国に50人在住し、兵庫県に多い。
103	弓納持	ゆみなもち	新潟県の越後が起源という。全国に400人在住し、新潟県に多い。

104	佐佐布	さそう	出雲国意宇郡佐佐布村が起源という。宇多天皇の皇子敦実親王を祖とする源氏（宇多源氏）佐々木氏流がある。「佐」は下総国佐野庄、または左衛門尉の職名を指す。全国に180人在住し、神奈川県や宮城県などに多く在住する。
105	五十殿	おむか・おみか	島根県の出雲国が起源という。全国に130人在住し島根県、大阪府埼玉県に多く在住する。
106	今給黎	いまきいれ・いまぎれ・いまくれ・いまきゅれ・いまきゅり こんきゅうりょう・こんきゅう	鹿児島県薩摩の豪族、給黎郡知覧を領したことが由来。全国に920人在住し鹿児島県に多く在住。
107	右衛門佐	うえもんさ・うざいもぎ・よもさ・うえもんすけ・	官職名より転じた苗字。または、左衛門尉の職名。全国に90人在住し、大阪に多い。

カッコいい一文字の苗字ランキング 1位から50位

番号	苗字	人数	呼び名	由来
1	皇	30	すめらぎ	滋賀県東近江の浄土真宗の浄願寺が由来。皇花山の「皇」の文字が語源。全国に30人在住。滋賀県・千葉県に多い。
2	柊	490	ひいらぎ	円満院宮坊官に見られる。柊の生えている土地が因む。全国に490人在住し、京都府に多い。
3	聖	40	ひじり	神社・仏閣・修験場のある場所が語源。暦や天候に詳しい聖人が語源。全国に40人在住し、北海道・和歌山県・長野県に多い。
4	橘	34900	たちばな	敏達帝子孫に美努王の子諸兄が母の賜姓橘と名乗ったことに始まる。全国に34900人在住し、兵庫県、大阪府、東京都に多い。
5	榊	15200	さかき	越後国頸城郡の有名な氏族は、古代道君の子孫と、中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに氏「藤原氏」秀郷流によるもの。全国に15200人在住し、東京と・福岡県・北海道・神奈川県に多い。
6	鳳	100	ほう・おおとり	関連に大西などがある。全国に100人ほど在住し、愛媛県や東京都に多い。
7	鐵	120	くろがね・てつ	由来については不明。全国に120に程在住し、神奈川県・宮城県・茨木県に多い。
8	椿	15100	つばき	椿連。全国に15100人在住し、千葉県・神奈川県・東京都に多い。
9	渚	400	なぎさ	中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏で（藤原氏）秀郷流。佐貫氏族で河内国交野郡

				渚院が起源という。語源は河川や海の静かになっていつ土地や地名。「なぎ」は穏やかなという意味。全国に400人在住し、京都府・大阪府兵庫県に多い。
10	龍	4300	りゅう・よん・たつ・たき・りょう	奄美の有力家系であった「龍家」の流れを汲む。吸収北部に勢力を見せた龍造寺氏の流れを汲む。伊勢神宮社家（中臣氏）などにも見られる。全国に4300人在住し、福岡県や佐賀県に多い。
11	桜	840	さくら	桜の植えてある場所が由来で、全国に840人在住し、岩手県や北海道に多い。
12	源	4600	みなもと・みなと・もと・もとし げん・はじめ	賜姓皇族で、嵯峨源氏や清和源氏が最も栄えた。源頼朝が征夷大将軍になり有名。全国に4600人在住し、大阪府や石川県など関西方面に多い
13	星	72400	ほし・せい	景行天皇の末裔である讃岐国造の末、星直の後の藤原氏よりでた豪族に見られる。陸奥の国磐井郡徳田郷が起源。他に桓武天皇の子孫で平の姓を賜った千葉氏流で、飛騨守頼胤の5男重胤が星氏のルーツとも言う。全国に72,400人在住し、福島県・宮城県に多い。
14	神	13500	かみ・かなえ・じん・しん・ごう みわ・こお・かん	出雲大社から出た諏訪神家の子孫の三輪氏が起源言う。三輪氏の子孫が神家を呼称し、神の鎮座地などが由来が由来。全国に13,500人在住し、青森県や北海道に多い。
15	楠	20800	くすのき・くすき・くすの・くすなん	楠木の起源と同じで、伊勢国三重郡楠が起源という。古代氏族であり、美務（みの）の王の妻県犬養（あがたのいぬかい）三千代が橘宿禰の氏姓を与えられ事に始まる橘氏ですが、他に多くの異流がある。全国に20,800人在住し大阪府や東京都、兵庫県に多い。
16	轟	6500	とどろき・とどろ・どめき	清原氏（清和天皇の皇子舎人親王の子孫）の五条系図に見える苗字で、全国に6,500人在住し、長野県や福岡県に多い。
17	嵐	2900	あらし・やまかぜ	嵐という地名は「荒地地や空閑地」が由来という。全国に2,900人在住し、北海道や東京都・兵庫県に多い。
18	霞	1400	かすみ・やすみ	霞が掛かっている所から聖地という意味や、植物の「かつみ」が転じて「かつみ」の生えている湿地帯などが由来という。全国に1,400人在住し、千葉県や群馬県・東京都に多い。
18	泉	64700	いずみ・いづみ・みなもと・せん	語源は遊水地や井戸から来ている。清和天皇の子孫の源姓や中臣鎌足が天智天皇から賜った藤

			ずみ	原氏など多くの大族に多い。天児屋根命が始祖と言われ、主として神事や祭事を司る。全国に64,700人在住し、大阪府・東京都に多い
20	瀧	3600	たき・たつ	嵯峨天皇、宇多天皇の皇子が賜った源氏や中臣鎌足が天智天皇より賜った藤原氏など、古代氏族がある。全国に3,600人在住し、静岡県や愛知県に多い。
21	要	1600	かなめ・よう・よし・もとむ	大阪府貝塚市畠中にあった畠中城の城主であった神前要人宗行の「要」から江戸時代に称したと伝えられる。全国に1,600人在住し、大阪府・鹿児島県に多い。
21	秦	29000	はた・はだ・みな・みなと・たい・しん・じん・ちん・しんの	秦の始皇帝子孫を自称する氏で、松尾大社が氏神。他の系統としては大江氏（土師の族で、相撲の祖の野見宿禰の子孫。天上天皇の子孫とも言える。全国に29,000人在住し、）福岡県や東京都・大阪府に多い。
23	叶	3000	かのう・かない・かなう・かなえ かの・かのお・よう・いえ・きょう・やす	関東の有名氏族の加納、狩野を起源とするという。中臣鎌足が天智天皇より賜った事に始まる氏（藤原氏）などがある。全国に3,000人在住し、大阪府や鹿児島県に多い。
23	乾	3000	いぬい・いぬて・かわい・かわき かん・けん・ぬくい	清和源氏の氏族で江戸時代に土佐藩や鳥取藩の重職を努めている。全国に3,000人在住し、大阪府や籠島県兵庫県に多い。
25	桂	13700	かつら・けい	語源は、桂、葛などの繁生地や、片方が浦になっている地形から来ている。全国に13,700人在住し、兵庫県、大阪府に多い。
26	扇	2600	おうぎ・おおぎ・おうき・おぎ	対馬が起源で、蘇我氏阿比留氏一族。全国に2,600人在住し、長崎県や福岡県に多い。
27	城	13900	そろ・じょう・たち・たて・きづき・ぐすく・きずき	桓武平氏の流れをくみ、越後国で栄えた豪族。平繁成が秋田城介になったのが由来という。全国に13,900人在住し、愛知県や大阪府福岡県・熊本県に多い。
28	柳	35200	やなぎ・やない・やぎ・りゅう・りゅう・りょう・ゆ	植物の「柳」から着いた苗字で、室町時代に新潟県十日町松代で、屋敷の柳の大木から行いたという。他に、天皇より賜った氏に始まるものもあるという。全国に35,200人在住し、東京都、埼玉県、福岡県に多い。
28	旭	5500	あさひ	天智天皇の末裔で、天智天皇の系譜を継げなかった嫡子が、皇宮の東、朝日の上る方向を守らせる為に住居と人を与え、「旭」の姓を名乗らせたという。全国に5,500人在住し、北海

				道、愛知県、齋為憲に多い。
28	都	1800	みやこ・ど・と・さと・くに・つぎ	関西地域に多く見られ、都宿禰、都朝臣などの子孫。全国に1,800人在住し、大分県や大阪府、兵庫県、福岡県に多い。
31	峯	10400	みね	伊勢国鈴鹿群峰村が語源という。桓武天皇の子孫で「平」の姓を賜った家系である「関氏流」がある。全国に10,400人在住し、大阪府や長崎県、福岡県に多い。
32	算	6900	かけい・かけひ・かけ・かくい	三重県の伊勢が語源という。中臣鎌足が天智天皇より賜った事に始まる氏（藤原氏）ほか、桓武平氏の名地にも見られる。全国に6,900人在住し、愛知県や兵庫県東京都に多い。
33	碓	3800	いかり・てい	語源は、河岸段丘や谷の上流の小平地や、海事に関係のある職業の印から来ている。全国に3,800人在住し、佐賀県や福岡県が多い。
33	英	2800	あなた・あがた・えい・はなぶさ はなぶさ・さだ・ひで	語源は、花卉のように広がる町並み。石川県の加賀国が発祥のひとつ。全国に2,800人在住し、石川県、東京都・大阪府に多い。
35	滝	19800	たき	滝の苗字は地形より発祥したものと思える。全国に19,800人在住し、愛知県、静岡県に多い。
36	辻	145000	つじ・つぢ	辻とは、道路の十時に交差しているところ、中心地を意味する地形が由来。関西では「山の頂上や峰」を意味する。全国に145,000人在住し、大阪府、京都府、東京都に多い。
36	丸	30	いちじく・いちのく・く・くちのく まる	「いちじく」という読み方は、数字の9が一文字で書けることからこう読まれたという説と、ひとつの字で九なので「いちじく」と読む説などがある。全国に30人ほど在住し、村内で件数などの地名にするようで、現在では新潟県や長野県に少数ある。
38	一	370	いち・かず・はじめ・のいまえ よこいち	語源は一の村、一の坪、一の庄などの当て字とされている。地名は各地に見られ、由来も諸説ある。「一」昔から縁起の良い数とされている。全国に370人ほど在住し、熊本県に多い。
39	柏	8600	かしわ・かし・はく	茨城県那珂市静では、東北地方に向かう平安時代の武将の源義家に食器がなかったため、柏の葉でもてなして賜ったと伝えられる。全国に8,600人在住し、茨城県井多い。
39	東	147000	あづま・あずま・あず・ひがし・とう・こち・ひがしこくばら	日本武尊が、碓氷峠で今は亡き愛妻の弟橘姫に「吾妻よ、吾妻よ」と叫んだ野に由来する、これによって碓氷峠より東を「東国」と呼んだ。

				「ひがし」読みは鹿児島県や熊本県に多く、「あずま」読みは東日本に多い。全国に147,000人ほど在住し、大阪府や鹿児島県に多い。
39	柴	13500	しば・さい	信濃の上伊那十三騎のひとつであり、子孫に会津藩の氏族がある。全国に13,500人在住し、東京都や茨木県に多い。
42	堤	70000	つつみ・つづみ・つつむ・さげ・さだ・てい	川沿いの堤防を意味する地形名で、戦国時代の武将の「鎌倉13人衆」にも。現在全国に70,000人在住し、福岡県に多い。
42	芝	14800	しば・こうげ	鹿児島県大島郡瀬戸内町芝が発祥の地。地形から着いた苗字で、全国に14,800人在住し、愛媛県、大阪府、などに多い。
42	藪	4400	やぶ・そう	平安時代に記録のある地名。地形から着いた地名で、「ソウ」は希少苗字。全国に4,400人在住し、大阪府など関西方面に多い。
42	埜	14300	はなわ・なにわ・ばん・こう・かく・かさ	地形から着いた地名で、山の突き出た個所・小高い所という意味で、全国に14,300人在住し茨木県や千葉県・東京都に多い。
42	濱	4000	はま・ひん	浜同様地形から着いた苗字で、全国に4000人在住し、大阪府、兵庫県に多い。
47	釈	230	しゃく・せき	釈迦の一文字をとって、仏弟子であることを示す。僧侶は本来出家の為苗字はないが、明治8年の「苗字必称令」により、仏教姓が起こったとされる。全国に230人在住し、茨木県や愛知県などに点在する。
48	嶋	9900	しま	戦国時代、「いわさ」或いは「ゆあさ」姓で織田家臣下であったが、信長の孫が高野山に流された時に供をして行き、徳川の世になって徳川家に召し抱えられ「嶋」の姓に替えたという。全国に9900人在住し、大阪や東京都に多い
49	奥	28200	おく・ふかし	地形で奥まった所を指し、川の上流域や山の奥まった地域、辺鄙な地域を言う。全国に28200人在住し、大阪府や関西方面に多い。
50	南	1	みなみ・なん・なむ・なみ	南氏は古来、京極、佐々木、南岡と先祖代々続く家系図があり、天皇に仕える宇多源氏、桓武平氏のルーツです。全国に103000人在住し、特に大阪府や兵庫県、東京都に多い。

Q. なんて読む？

伊釈加釈

